

ドッグトリマーに挑戦

津中で
来授業
驚未来

湖西市の驚津中は8日、社会人を講師に招いて進路を考える「未来授業」を同校で行った。2年生約170人がさまざまな職業を通じて、仕事の苦労や面白さを学んだ。

しつけや犬の心理も学ぶ



生徒はトリマーやカウンセラー、助産師など16講座の中から関心のある講座を選び、仕事内容を聞いた。湖西市中区の専門学校「ルネサンス・ペット・アカデミー」で教頭を務める藤原研一さん(47)の講座では、ドッグトレーニングやトリマーの説明を受けた。

藤原さんはクリッカーという音が鳴る道具を使った犬のしつけ方のマネキンやブラシ、はさみを使ってトリマーの気分を味わう生徒に湖西市の驚津中

法を紹介。「お座り」の覚えさせ方として、犬が座った際にクリッカーを鳴らしておやつを与えることで、その音や行動を良いことと認識させる仕組みを解説した。

犬のマネキンも用意された。生徒はブラシとはさみを使って毛並みを整え、トリマーの気分を味わった。高須心知さん(14)は「実際に体験してみても、動物と接する仕事の面白さが少し分かった」と笑顔を見せた。

(湖西支局・大沼雄大)

田嶋さんが金賞
じゃがた品評会

天竜区

湖西市天竜区水窪町と佐久間町の住民でつ



くる「みさくぼ野営育てる会」(守屋銀会長などはこのほ在来種のジャガイ「水窪じゃがた」の評・販売会を同町でつた。

会員48人が栽培し

じゃがたを20個ずつ詰めして持ち寄り、西部農林事務所や協、協働センターの

ボーイスカウト100周年

浜松連合
協議会 記念誌を浜松市長に贈呈

中区

浜松市内で活動するボーイスカウト浜松連合協議会の代表者が7日、名誉会長を務める鈴木康友市長を市役所に訪ね、日本ボーイスカウト連盟が作成した結成100周年記念誌を市に贈呈した。2020年度の事業報告なども行った。

浜松東地区の稲野吉弘委員長が記念誌を贈呈し、内容を紹介。「本県は日本のボーイスカ



県連盟結成100周年記念誌について説明する稲野委員長(右)＝浜松市役所

同協議会は市内2地区(浜松、浜松東)のボーイスカウト計14団体が構成し、子どもや指導者計855人が所属。少子化などで年々参加者が減っていることを課題に挙げた。

20年度の事業は、新型コロナウイルスの影響で多くが中止になったものの、「1人用デントで密を避けてキャンプを行うなど、工夫して頑張っている」と紹介。鈴木市長は「ワクチン接種が進み、早くコロナが収束することを願う」と語った。(浜松総局・瀬島義孝)

雄踏地区シニアク
交通安全を宣言

浜松西署

夏の交通安全県民運動(10日まで)に合わせ、湖西市西区雄踏地区の9シニアクラブでつくる「ねんりんラブ雄踏」は7日、交通安全宣言書を浜松西署に提出した。



坂田会長(左)から宣言書の提出を受ける田中署長＝浜松西署

せて、湖西市西区雄踏地区の9シニアクラブでつくる「ねんりんラブ雄踏」は7日、交通安全宣言書を浜松西署に提出した。

坂田会長(左)から宣言書の提出を受ける田中署長(右)は「加害や被害者